

シェフチークの孫弟子にあたるホロウニョヴァー先生を師と仰いでその技法や教授法を忠実に継承するみのりさんは、その技法を広める努力を精力的に続けてこられました。さらに、彼の教授法の忠実な伝承者としての強い使命感から、近隣のプロ・ヴァイオリニストたちに呼びかけ自らシェフチーク研究会を組織し、彼の教授法の普及と後進の指導に精力的に取り組んでおられます。

この度、チェコ国営放送から招待を受けて、その研究会のメンバーを連れてシェフチークゆかりの美しい南ボヘミアの町、ピーセクで演奏会を開催し、その教授法の成果をシェフチークの母国の人たちにも披露することになりました。チェコ国営放送は、みのりさんのシェフチーク研究の紹介とその演奏会の模様をドキュメンタリー番組として制作し、テレビによってチェコ全土に放映することになっています。

それに先立ち、先ず広島の皆様シェフチークの作品集を披露されます。

最後に、南ボヘミアでの演奏会のご盛会、ご成功を心からお祈りするとともに、今宵の演奏会にご来場くださった皆様方から心から御礼申し上げます。また、サポーターの皆様方には、数日後チェコへと旅立つ予定の演奏者の方々を盛大な拍手で激励して下さるようお願いいたします。(プログラムに掲載予定)

1852年、南チェコに生まれたシェフチークは、激動のヨーロッパにおいて、ヴァイオリニストとして、また厳格な良き教育家として活躍しました。シェフチークの遺した数々のヴァイオリン教本は、21世紀の今でも重版され、日常の練習や基礎作り、そして技術向上に寄与しています。全世界から、少なくとも1,199名が彼の元で学んでいます。

長年シェフチークを研究してこられた中畝みのりさんが仲間とともにシェフチーク研究会グループをつくり、2008年9月には、南ボヘミア公演でシェフチークの作品集を開催するに至りました。中畝みのりさんと仲間みなさんの研究の成果と一緒に学習させていただきましょう。

そんなことを思いながら、7月に予定されている「おおの小坊主さんの会」の打ち合わせに同席させていただいた。

おとなたちが、地域の子どものために動く、こういった活動をしている人たちには、本当に頭が下がる。こどもたちのこのころの真真中に、他人のおとなに可愛がられて育った体験は、人は人に優しくされたら嬉しい、という原体験を植え付けてくれるだろう。人に優しくしてもらって嬉しい、だから自分も人に優しくしてあげたい。このような心の動きを体験してこそ、他人を思いやることのできる人になるのだろう。

ちいさき人を大切に思っって頑張るおとながられることを、今日は記録に残しておこうと思います。

日 時:2008年8月15日(金)PM7時開演

場 所:広島市西区民文化センター・スタジオ(広島市西区横川新町6-1 TEL082-234-1960)

協賛協力金:1,000円(全自由席)

演 奏:シェフチーク研究会グループ

〈プログラム〉

シェフチーク作曲Op.3より 6曲

Op.10のチェコ舞曲 全7曲

J.S.バッハ作曲BWV1006 組曲第3番より プレリユード

バガニーニ作曲 無窮動

〈出演者〉

VIOLIN:後藤 博亮、佐々木 百合、鳥越 薫、高松 寛子、吉國 泰代、船橋 潤子、豊田 絢子、山口 陽子、市山 信子、
三輪 俊江、中畝 みのり

PIANO共演者:後藤 教子、北林 聖子、飛弾 博子、鳥越 巨

主 催:中畝みのり応援演奏会実行委員会 実行委員長 藤本 黎時

後 援:チェコ大使館、広島チェコ協会(申請中)

事務局:はつかいちまちづくりスクール 代表 井上 さちこ

〒739-0401 廿日市市福面3-14-14 TEL/FAX0829-56-1668

2008(平成20)年6月30日 はつかいちまちづくりスクール

井上さちこがNPOに協力して、「はつかいちまちづくりスクール」を開催します。

テーマ「異世代による世界遺産理解学習講座 & 環境美化活動事業 ~わがまちを知る・楽しむ・伝える・いつくしむ~」。

世界遺産・厳島神社をもつ廿日市市民を対象に、特に異世代による交流を図りながら、世界遺産を理解し次の世代に継承することを目的に、学習講座を開催します。またその保全のために、他のグループ団体と協働しながら環境美化活動にも取り組みます。連続してのご参加が基本ですが、1回だけのご参加も歓迎です。お子さんやお孫さんにご参加ください。夏休みの宿題にもいいですよ♪(廿日市市市民以外の市民でも参加できます)

世界遺産理解学習講座 & 環境美化活動事業について

●世界遺産理解講座 vol.1

日 時:2008年7月26日(土) 10:00~12:00

テーマ:「世界遺産厳島神社を語り継承していくために」

講 師:北川建次先生(広島ユネスコ協会会長・日本ユネスコ国内委員・広島大学名誉教授)

場 所:廿日市市大野保健福祉センター TEL0829-56-2656 (〒739-0463 廿日市市大野4124)

●環境美化活動 vol.1

日 時:2008年8月2日(土) 10:00~12:00

場 所:大聖院~白糸の滝清掃(予定) TEL0829-44-0111 (〒739-0592廿日市市宮島町210)

●世界遺産理解講座 vol.2

日 時:清掃後

講 師:大聖院座主のおはなし

場 所:吉田正裕座主(大聖院77代座主)

●世界遺産理解講座 vol.3

日 時:2008年8月30日(土) 13:30~15:00

テーマ:「清盛と厳島神社&厳島神社の減災の知恵」

講 師:三浦正幸先生(広島大学大学院文学研究科教授)

場 所:廿日市市大野保健福祉センター TEL0829-56-2656(〒739-0463 廿日市市大野4124)

●環境美化活動 vol.2

日 時:2008年9月7日(日) 10:00~15:00(宮島棧橋に9:50集合)

場 所:宮島最西端「あての木浦」山火事跡地植林下草刈り作業(申請中) 広島森林管理署当の事業

乗船料:実費800円が必要です。弁当・水をご持参ください

●世界遺産理解講座 vol.4

日 時:2008年9月7日(日) 10:00~15:00

テーマ:厳島の自然について~作業現地へ移動する船の中で

講 師:広島森林管理署、CCC自然文化創造工場広島事業部

主催:NPO法人ひろしま生涯教育研究所 理事長 斉藤 清三

共催:はつかいちまちづくりスクール 代表 井上 さちこ

後援:大野万年青会連合会、地御前老人クラブ長寿会、宮島ユネスコ協会、NPO法人ひろしま女性NPOセンター未来

各回資料代:100円

※9月7日の事業の主催者は、CCC自然文化創造工場、宮島エコツーリズム、宮島ユネスコ協会です。

この回は、乗船料として実費800円が必要です。また、弁当と水をご持参ください。

☆この事業は、JT2008年度青少年育成に関するNPO助成金の支援を受けて行う事業です。

問い合わせ:井上 さちこまで(〒739-0401 廿日市市福面3-14-14 TEL/FAX0829-56-1668)

2008(平成20)年6月30日 平成20年度「平家物語を聴く会」 9月13日に決定

宮島・大聖院で前進座 嵐圭史さんの第七回「平家物語を聴く会」

日 時:2008(平成20)年9月13日(土) 16:30~18:45

〈スケジュール〉

9月13日(土) 1泊2日ご宿泊・公演つき・翌日ガイド料込み特別企画19,000円(宿泊:宮島ホテルまこと ※要予約)

16:30 大聖院で演奏会

17:00 大聖院で嵐圭史さんが「巻の七」を語ります

19:15 宮島ホテルまことにて夕食、ご宿泊(食事のおいしさに定評があるホテルです。TEL0829-44-0070)

9月14日(日)

午前中 NPO☆未来のスタッフが「とっておきの宮島」をご案内します。

※公演のみのご参加も出来ます(4,000円 ※直接会場にお越しください)

〈プロフィール〉

俳優 嵐 圭史(あらし けいし) 屋号=豊島屋(てしまや)

1948年9月 前進座子供劇場『ライオンとわしとさる』で初舞台。

1992年まで13年間平家物語を題材とした木下順二さんの「子午線の祀り」に出演。主役の平知盛を演じた。

1992年『怒る富士』の伊奈半左衛門で第47回文化庁芸術祭賞を受賞。

7年がかりで平家物語12巻の原文の朗読をCD29枚にまとめた。
宮島での「平家物語を聴く会」の公演は連続7回目になります。

大聖院

宮島にある寺院の中で最も歴史が古く真言宗御室派(総本山仁和寺)の寺院です。

.....

「平家物語」巻の七 事前学習会

日 時:9月13日(土)15:00~16:15

場 所:宮島・大聖院(TEL0829-44-0111)

参加費:500円(資料代含む)

講 師:大槻和夫さん(安田女子大学 文学部 日本文学科教授)

※直接会場にお越しください。

主催:NPO法人ひろしま女性NPOセンター未来 理事長 井上 佐智子

住所:廿日市市福面3-14-14 TEL/FAX0829-50-1170

協賛:(株)カルビー

後援:(社)宮島観光協会

特別協力:大聖院

問い合わせ:井上 さちこまで(〒739-0401 廿日市市福面3-14-14 TEL/FAX0829-56-1668)

2008(平成20)年6月30日 手紙を使った小・中・高校生とのコミュにケーションづくり

はつかいちまちづくりスクール~団塊世代の次世代育成&社会貢献事業のお知らせ

手紙を使った小中・高校生とのコミュニケーションづくり事業を開催します。手紙をやり取りして心を伝え合うのは「文化」です。異世代の人々が、手紙の書き方などを学び、「手紙」を使ったコミュニケーションを体験します!

- ①ためになる「手紙の書き方」
- ②どれだけ知ってる?「四文字熟語」
- ③「故事ことわざ」使ってみたら面白い! ...おもしろそうでしょ?

●1回目

ワークショップ: 大人からのメッセージ「仕事とは!」「ゲーム」

日 時:2008(平成20)年7月20日(日)13:30~16:30

場 所:廿日市郵便局2階(〒738-0899 廿日市市新宮1-16-10 TEL0829-31-1647)

広電廿日市市役所下車・徒歩5分

講 座:「手紙の書き方」を習得する~“四文字熟語”や“ことわざ”を使ってみよう!

講 師:書家・元広島大学講師 世木田 江山(せきだ こうさん)先生

進 行:NPO法人ひろしま女性NPOセンター未来 理事長 井上 佐智子

参加費:無料

定 員:親子や、孫と祖父母のペアで50組

当日のお楽しみ♪

特別に、郵便が届くまでを見学できます。興味しんしんですね。

講座終了後、おとなたちから子どもたちへ往復はがきを出します。子どもたちは、短くてもいいから返事を書いてね♪

●2回目

ワークショップ: 四文字熟語ゲーム&子どもたちからのメッセージ「仕事について!」

日 時:2008(平成20)年8月24日(日)10:00~12:00

場 所:廿日市郵便局 2階

進 行:NPO法人ひろしま女性NPOセンター未来 理事長 井上 佐智子

主催:NPO法人ひろしま生涯教育研究所 理事長 斉藤 清三

共催:はつかいちまちづくりスクール 代表 井上 さちこ

後援:NPO法人ひろしま女性NPOセンター未来、大野万年青会連合会、地御前老人クラブ長寿会

協賛:JP POST日本郵便 廿日市市内郵便局

問い合わせ:井上 さちこまで(〒739-0401 廿日市市福面3-14-14 TEL/FAX0829-56-1668)

2008年5月号の「井上さちこ通信」では、「中国 四川省の学校倒壊で、子どもたちの死者28,000人。廿日市市の子どもたちは大丈夫?」として、廿日市市のHPから〔廿日市市の公立学校の現状(公立学校整備計画から)H18年度から20年度〕を掲載しました。

廿日市市には、小学校が19校あり、そのうち耐震診断をした率は47.6%全棟数は84棟で、そのうち昭和56年以前の建設のものが42棟で、耐震性のない棟は17棟と発表しています。また、中学校は10校あり、耐震診断をしたのは、50%です。全棟数は54棟で、そのうち昭和56年以前に建設したものが30棟で、耐震性のない棟は11棟です。つまり小学校、中学校あわせて29校のうち、耐震調査をした学校は約半分の15前後の学校しかありません。耐震性のない棟は小中合わせて27棟です。どこの学校かは公表していませんから、不安を感じる保護者もおられることでしょう。そういえば、昨年、わたしが市議として在籍中のころ、橋梁についての耐震調査をやっていない自治体として、広島県内では廿日市市の名前が挙げられていました。なぜ橋梁についての耐震調査をしないのかと聞かれた担当者が「予算がないから」と答えていたのが印象に残っています。

2008年3月12日付けの中国新聞にも、廿日市市教委、廿日市市内の小・中の半数で1993年に文部科学省が示した学校図書標準冊数に届かないため、市民から学校図書、寄贈募ると大きな活字で書かれています。

どうしたことでしょう?

今年度2008年度の学校図書予算は、小・中29校で1,500万円。分かりやすく説明すると1校当たり517,000円の予算です。小学校には、今年度9,000冊、中学校に2,000冊を購入する。来年度同じように購入しても、文部科学省の標準冊数に届かないため、市民に学校図書の寄贈を募ると載っています。

ちょっと待ってください!

1993年から何年経っているのでしょうか?! 実に15年も経っています。ちょうど前市長の就任当時のころのことです。そしてまたその後継者の現市長の元でも、同じ傾向がみられることを如実にあらわしていると言えるのではないのでしょうか。寄贈を募るのは、大いに結構。

しかし、ちょっと待ってください!

市民の皆さん、本当に「予算がない」という理由に納得されますか?

公約になかった、副市長を1人増員しました。このことひとつとっても、1月の給与は107万円、年1,700万円になります(実際には1人の副市長の人件費総額は2,000万円近くになります)。

今年度、宮島サービスエリアにETC専用インターチェンジの建設すると、広報にでていました。図面が載っていませんから、どのような工事になるか分かりませんが、ETC専用ですから、廿日市市民のなかで使う市民は限られているといえます。昨年度、年度が始まって急に「社会実験をする」と言って、2007年12月開通を目標に取り付け道路予算を補正しました。このとき、確か市の負担は約8,000万円弱と説明がありました。社会実験の効果測定内容の公表結果をわたしは見ているのですが、現在のところ、廿日市市のHPを見ても見つかりませんから、市民にはどのように公表したのかわかりません。

とにかく社会実験の効果測定の結果、2008年度予算で、総事業費10億円をかけて宮島サービスエリアをにETC専用インターチェンジとして工事する。市の負担分は、実に6億円と書かれています。取り付け道路を含めると11億円もの総事業費ですが、ある専門家は「高い」と言っておられました。どのような工事概要か、広報にも市のHPにも載っていませんから分かりませんが、財政難の折、5,000万円または1億円を超える事業は工事の概略や図面を、HPなどに公表して欲しいものです。わたしが敢えて市民の皆さんにお伝えしたいのは、「廿日市市にとって、政治課題の優先順位をつけた場合、何がその上位にいくべき課題か」ということです。

市民生活の安心安全はどこから整備していけばいいのか、わたしには、学校と橋梁の耐震調査と耐震化工事を早急に行うことが、廿日市市政における最優先課題だと考えます。